

すいがい まも  
水害からいのちを守るために  
くもずがわへん  
(雲出川編)



へいせい ねんたいふう ごう しんすい  
平成21年台風18号による浸水

1	わたしたちの <sup>くもずがわ</sup> 雲出川	1
(1)	<sup>くもずがわ とく</sup> 雲出川の特ちょう	1
(2)	<sup>ちけい とく</sup> 地形の特ちょう	3
(3)	<sup>かわ れきし</sup> 川の歴史	5
2	<sup>すいがいじ</sup> 水害時 <sup>きけん</sup> におこる危険	7
(1)	<sup>い せ わんたいふう</sup> 伊勢湾台風	8
(2)	<sup>すいがいじ</sup> 水害時 <sup>きけん</sup> におこる危険	11
3	<sup>すいがいじ</sup> 水害時にわたしたちがとるべき <sup>こうどう</sup> 行動	20
(1)	<sup>すいがい</sup> 水害により <sup>み きけん</sup> 身に危険があるとき	20
(2)	<sup>し</sup> 知っておくべきこと	23
4	みんなできりくむ <sup>すいがい</sup> 水害へのそなえ	27
(1)	<sup>すいがい こま くふう</sup> 水害で困らない工夫	27
(2)	<sup>ちいき ひと かぞく たす あ</sup> 地域の人、家族との助け合い	30
5	さいごに	32

わたしたちといっしょに<sup>まな</sup>学んでいきましょう。



先生



しょうた



りか

○ この本の<sup>ほん</sup>見方<sup>みかた</sup>



そのページで<sup>まな</sup>学ぶ<sup>ことば</sup>言葉の<sup>いみ</sup>意味を<sup>せつめい</sup>説明しています。

考えてみよう

みんなで<sup>かんが</sup>考えてみましょう。

もっと知ろう

<sup>じゅぎょう</sup>授業で<sup>まな</sup>学ぶ<sup>かんけい</sup>ことに関係することを<sup>と</sup>取り<sup>あ</sup>上げて  
います。<sup>じかん</sup>時間があるときに<sup>よ</sup>読んでみましょう。

くもずがわ とく  
(1) 雲出川の特ちょう

みうねやま  
三峰山

きみがの  
君ヶ野ダム

みすぎちよう  
美杉町

いちしちよう  
一志町

なかむらがわ  
中村川

じようすいじよう  
浄水場

まつさかし  
松阪市

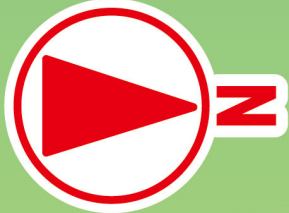
ジェイアールきせいはんせん  
JR 紀勢本線

くもずがわ  
雲出川

こくどう  
国道 23 号

からすちよう  
香良洲町

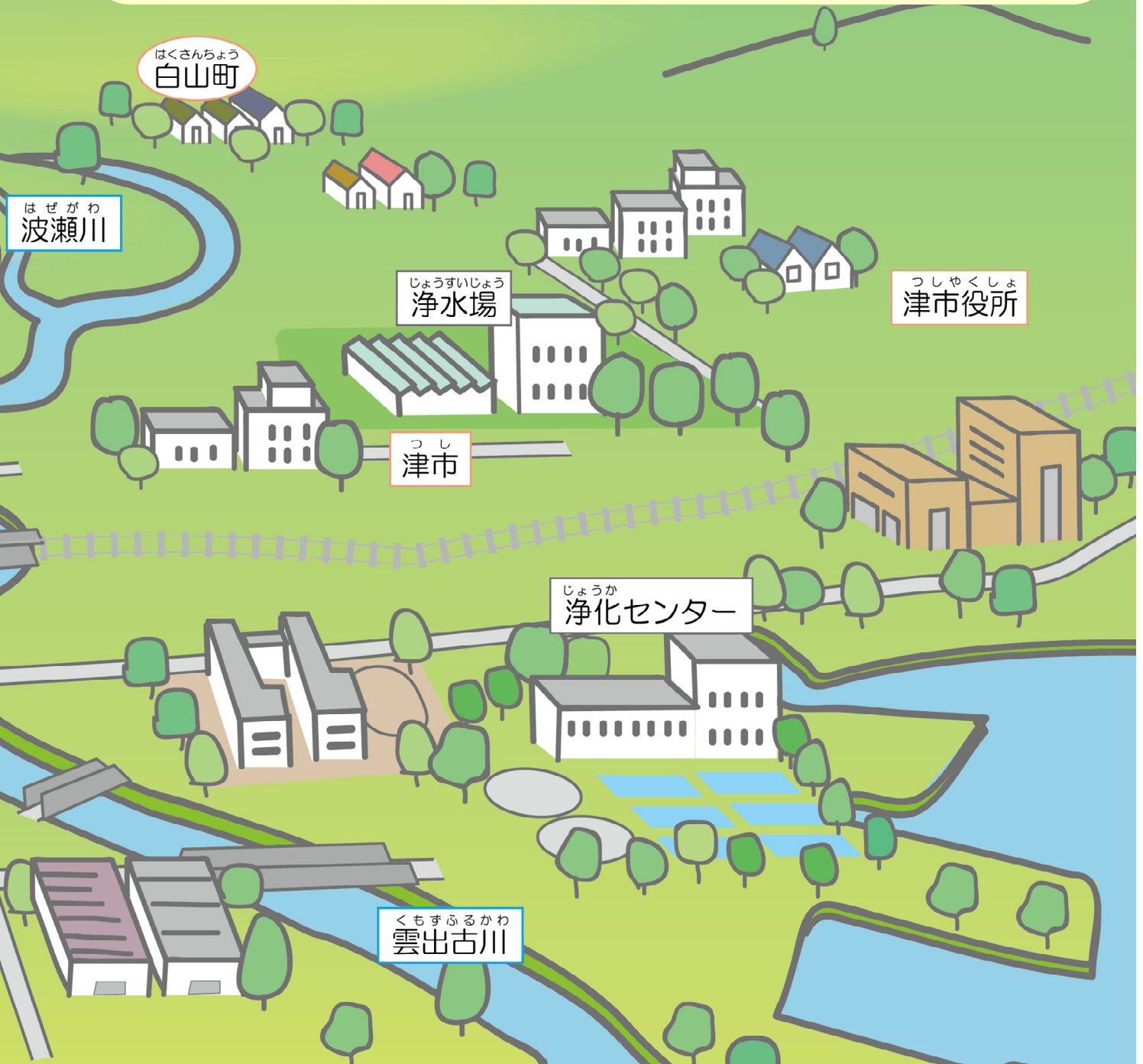
いせわん  
伊勢湾



## 考えてみよう

みなさんは川に遊びに行ったことはありますか。

川はどのようなことに利用されているでしょうか。



くもずがわ みえけん ならけん さかい みうねやま なが  
雲出川は、三重県と奈良県の境にある三峰山から流れ  
はじめ、はぜがわ なかむらがわ かわ なが  
波瀬川や中村川などの川と流れをひとつにして、  
いせへいや なが ご くもずふるかわ いせ  
伊勢平野を流れます。その後、雲出古川とわかれて、伊勢  
わん なが  
湾に流れこみます。

ちけい とく  
(2) 地形の特ちょう

くもずがわ ちけい <sup>すがた</sup>  
雲出川は、地形によってさまざまな姿をしています。

のうぎょう ひと あつ ばしよ りよう い  
農業や人が集まる場所として利用されるほか、生きものにとっての  
たいせつ  
大切なすみかになっています。



のうぎょう いちしまい  
農業 (一志米)



アユつり



なが あさ  
流れがはやく浅いところ

さんらんじょう  
(アユの産卵場)



ひ  
干がた



かわ うみ なが ところ しず  
川が海に流れこむ所や、静か  
かいがん こま すな だろ  
な海岸には細かい砂や泥がたくさん  
たまります。潮が引いたときにでき  
る遠浅の浜を「ひがた」といいます。

くもずがわ  
雲出川はわたしたちの生活や生き物に豊かな恵みをあたえているね。わたしたちの学校や家の近くでは、どのような景色がみられるかな。



かせんりょう すいせいせいぶつ ちょうさ  
河川利用 (水生生物の調査)



かせんりょう なかむらがわ さくら  
河川利用 (中村川の桜)



かせんりょう かせんじきこうえん  
河川利用 (河川敷公園)



たかのじょうすいじょう  
高野浄水場

### (3) <sup>かわ</sup>川の<sup>れきし</sup>歴史

<sup>くもずがわ</sup>雲出川では、<sup>むかし</sup>昔から<sup>すいうん</sup>水運がさかん  
でした。<sup>じょうりゅう</sup>上流からはいかだで<sup>もくざい</sup>木材  
を運び、<sup>かりゅう</sup>下流のほうでは、<sup>こめ</sup>米・<sup>ちや</sup>お茶  
・<sup>すみ</sup>炭・<sup>しお</sup>塩などを<sup>はこ</sup>運んでいました。  
<sup>ひとびと</sup>人々にとって、<sup>くもずがわ</sup>雲出川は<sup>せいかつ</sup>生活の  
<sup>いちぶ</sup>一部だったのです。



<sup>すいうん</sup>水運…川を利用して、  
<sup>ふね</sup>船で<sup>ひと</sup>人や<sup>はこ</sup>ものを運ぶこと。



<sup>くもずがわ</sup>雲出川の<sup>なが</sup>流れ

しかし、ひとたび<sup>おおあめ</sup>大雨がふれば、<sup>かわ</sup>川から<sup>みず</sup>水があふれて<sup>いちめんみず</sup>一面水びたしに  
なりました。そこで、<sup>ひとびと</sup>人々は<sup>かくち</sup>各地で<sup>じぶん</sup>自分の<sup>のうち</sup>農地を守るために<sup>まも</sup>堤防をつく  
りました。それぞれが<sup>じぶん</sup>自分の<sup>のうち</sup>農地を守るために<sup>まも</sup>堤防をつくったので、  
<sup>ていぼう</sup>堤防が<sup>とぎ</sup>途切れた部分（<sup>ぶぶん</sup>開口部）<sup>かいこうぶ</sup>があります。

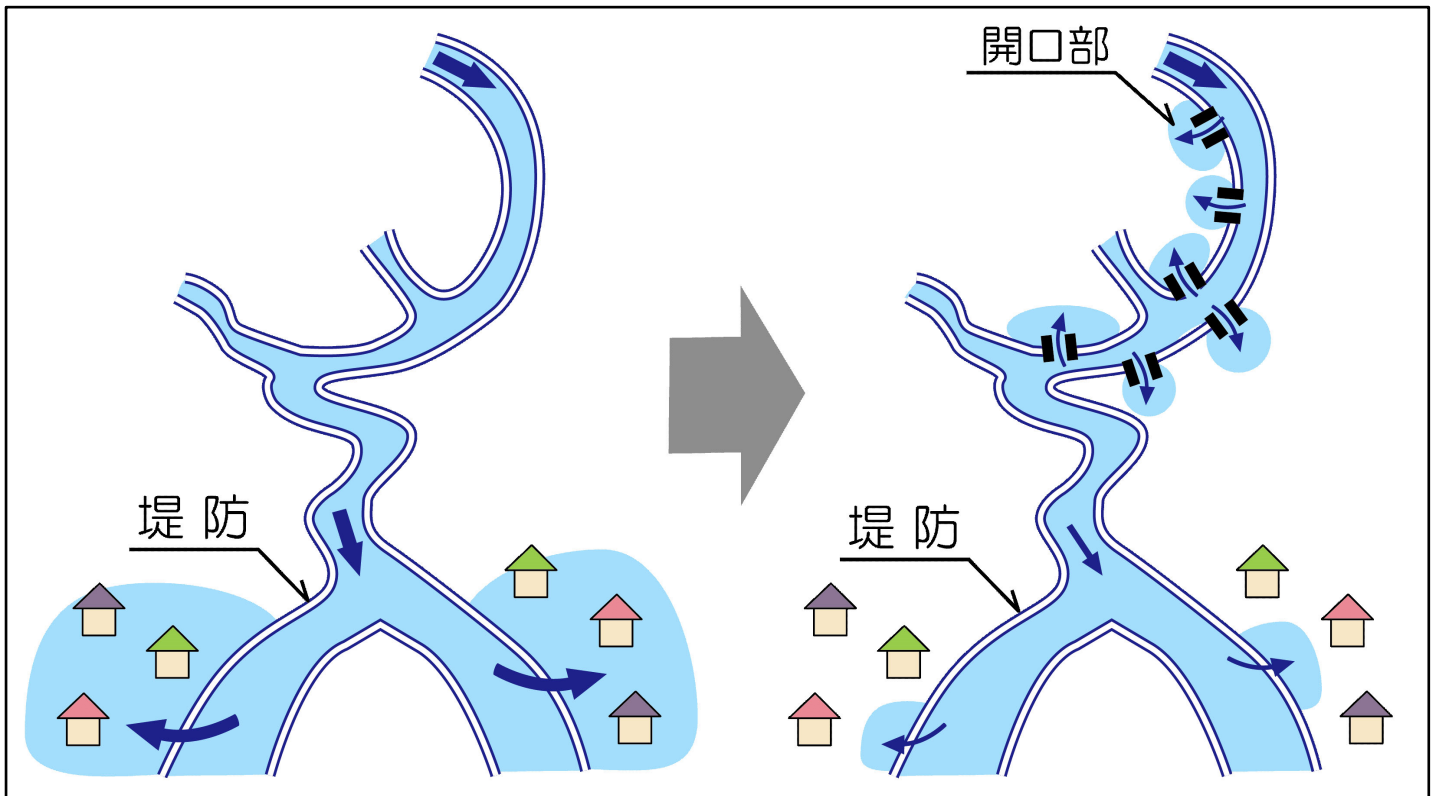


<sup>ていぼう</sup>堤防…<sup>みず</sup>水を<sup>ふせ</sup>防ぐ  
ために<sup>つち</sup>土を<sup>も</sup>盛り<sup>あ</sup>上げて  
つくったもの。

<sup>かいこうぶ</sup>開口部（<sup>そのむら</sup>其村）



くもずがわ 雲出川では、<sup>いま</sup>今でも<sup>かいこうぶ</sup>開口部が<sup>6</sup>6か所あり、<sup>しんすいひがい</sup>浸水被害のおもな原因とな<sup>げんいん</sup>なっています。一方で、<sup>いっぽう</sup>一方で、<sup>かいこうぶ</sup>開口部から<sup>みず</sup>水があふれることで、<sup>かりゆう</sup>下流のほうの<sup>しんすいひがい</sup>浸水被害がおさえられている<sup>めん</sup>面もあります。



<sup>ていぼう</sup>堤防が<sup>とぎ</sup>途切れた部分（<sup>かいこうぶ</sup>開口部）の<sup>はたらき</sup>はたらき

## もっと知ろう

### <sup>ゆうすいち</sup>遊水地のはたらき

<sup>ゆうすいち</sup>遊水地とは、<sup>おおあめ</sup>大雨がふったときに<sup>かりゆう</sup>下流のほうの<sup>しんすいひがい</sup>浸水被害をおさえるために、<sup>けいかくてき</sup>計画的につくった<sup>みず</sup>水をためる<sup>ばしょ</sup>場所のことをいいます。

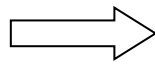
<sup>くもずがわ</sup>雲出川では、<sup>かくち</sup>各地で<sup>ひとびと</sup>人々が<sup>じぶん</sup>自分の<sup>のうち</sup>農地の<sup>まえ</sup>前に<sup>ていぼう</sup>堤防をつくったため、<sup>ていぼう</sup>堤防が<sup>とぎ</sup>とぎれた<sup>ばしょ</sup>場所（<sup>かいこうぶ</sup>開口部）があり、<sup>ゆうすいち</sup>遊水地のようなはたらきを<sup>す</sup>する<sup>ばしょ</sup>場所となっていますが、<sup>こうけい</sup>このような<sup>ぜんこくてき</sup>光景は全国的にもめずらしいものです。



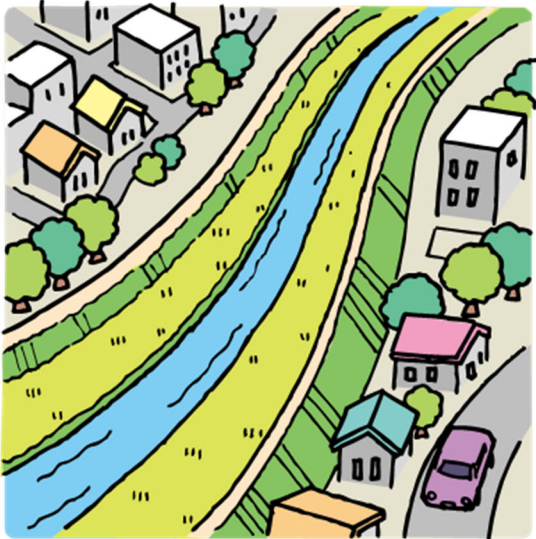
くもずがわ おおあめ かわ みず  
雲出川では、大雨のときに川から水があふれないように  
ていぼう まな  
堤防がつくられたと学びました。  
ていぼう みず  
堤防があるところからは、水はあふれてこないのかな？

はぜがわ ようす  
<波瀬川の様子>

あめ ふ まえ  
雨の降る前



あめ ふ あと  
雨の降った後



よ ぎもん  
良い疑問ですね。

おおあめ くもずがわ じょうりゆう なが たいりょう  
大雨がふると雲出川の上流から流れてきた大量  
みず ていぼう  
の水が、堤防からあふれてしまうことがあります。

くもずがわ おお すいがい さいきん  
それでは、雲出川でおこった大きな水害や、最近の  
ひがい  
被害をみてみましょう。



# いせわんたいふう (1) 伊勢湾台風

しょうわ ねん (1959年) ねん がつ にち はっせい いせわんたいふう たいふうだい ごう  
昭和34年 (1959年) 9月26日に発生した伊勢湾台風 (台風第15号)

ちゅうしんきあつ おおがたいふう どうかいちほう おお  
は、中心気圧が929.6ヘクトパスカルの大型台風で、東海地方に大きな被害をもたらしました。

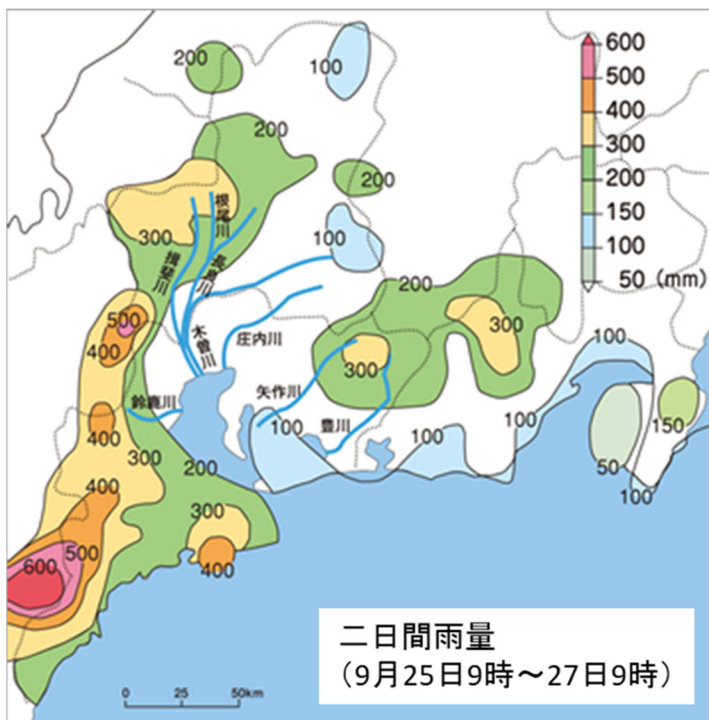
## ちゅうしんきあつ ひく たいふう (1951年～2019年) ■ 中心気圧が低い台風 (1951年～2019年)

じゅんい 順位	じょうりくじ きあつ 上陸時の気圧 (ヘクトパスカル)	じょうりにちじ 上陸日時
1	925	1961年9月16日9時すぎ
2	929	1959年9月26日18時ごろ
3	930	1993年9月3日16時前



ヘクトパスカル…

たいき あつりよく  
大気(たいき)の圧力(あつりよく)をあらわす  
たんい すうじ ひく  
単位(たんい)です。この数字(すうじ)が低い  
ほど、台風(たいふう)の強さ(つよ)は強(つよ)くなり  
ます。伊勢湾台風(いせわんたいふう)は、観測(かんそく)  
されている中(なか)で 2番目(ばんめ)  
に中心気圧(ちゅうしんきあつ)が低い(ひく)台風(たいふう)です。



ふつかかん うりょう  
二日間でふった雨量



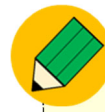
たいふう とお みち  
台風の通り道

くもずがわりゅういき  
雲出川流域では、3,053戸の建物が浸水しました。中には、建物が  
こわれる被害も多くみられました。

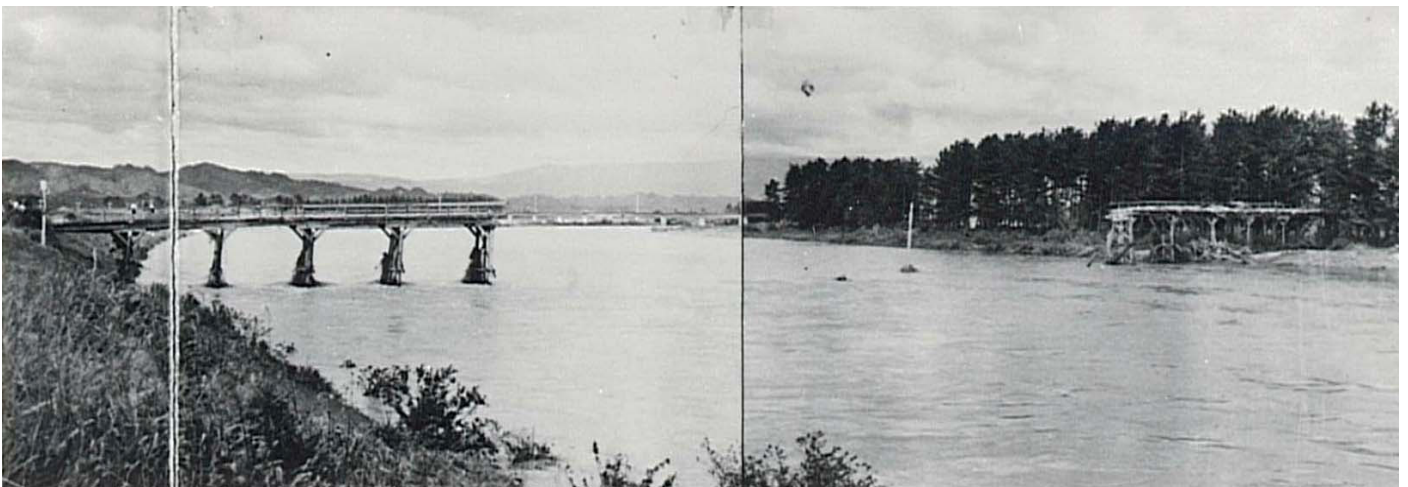
しゃしん ふね じゆう いどう ようす  
写真からは、船などがないと自由に移動ができない様子がみてとれ  
ます。伊勢湾台風による被害は、生活に大きな影響を与えました。



ふね つか いどう ようす  
船を使わないと移動できない様子



やま だいち あまみず  
山や大地にふった雨水  
は、低いほうへと流れ、川に  
なが  
流れこみます。このように、  
あまみず かわ あつ はんい  
雨水が川に集まる範囲をそ  
かわ りゅういき  
の川の「流域」といいます。  
くもずがわりゅういき  
雲出川流域とは、その  
はんい あめ くもずがわ  
範囲にふった雨は雲出川に  
なが はんい  
流れこむという範囲をあら  
わします。



はし ようす  
橋がとちゅうでおちてしまった様子

# もっと知ろう

## おおあめ 大雨ってどんなとき？

台風が近づいているときに、テレビなどで「明日は猛烈な雨になるおそれがあります。外出はひかえましょう。」というアナウンスを聞いたことはありませんか。テレビなどでの雨の表し方は、下の表の通りに決まっています。

また、「1時間雨量●mmの雨」とは、「1時間で●mmの深さで雨がたまること」を示します。50mmをこえると非常に危険です。

1時間雨量 (mm)	予報用語 (人のうけるイメージ)	人への影響	屋内	屋外	車に乗っていると
10~20	やや強い雨 (ザーザーとふる)	地面からのはね返りで足元がぬれる 	雨の音で話し声がよく聞き取れない 	地面一面に水たまりができる 	
20~30	強い雨 (どしゃぶり)	かさをさしていてもぬれる 			ワイパーをはやく動かしても見づらい 
30~50	はげしい雨 (バケツをひっくりかえしたようにふる)		寝ている人のおよそ半数が雨に気づく 	道路が川のようになる 	スピードをあげているとブレーキがかりにくい 
50~80	ひじょうにはげしい雨 (滝のようにふる)	かさがまったく役に立たなくなる 		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 	車の運転は危険 
80~	もうれつな雨 (息苦しさ、恐怖を感じる)				

(気象庁提供)

## (2) すいがいじ きけん 水害時におこる危険

にほんぜんこく まいとし すいがい すいがい  
日本全国では、毎年のように水害がおこっています。水害がおこると、下の写真のようにさまざまな被害を受けます。

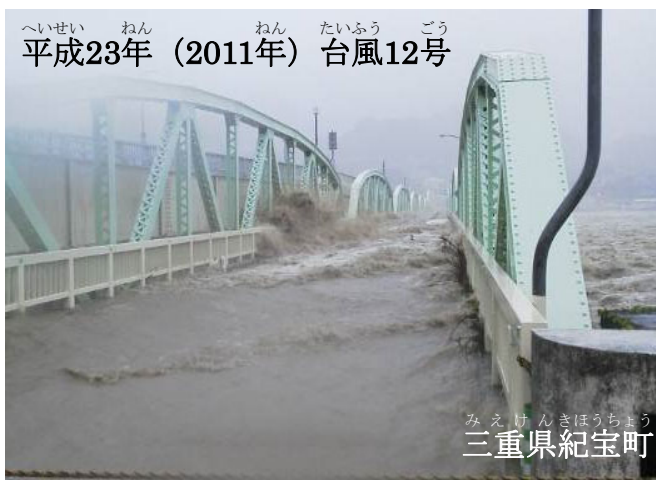
すいがい じょうきょう  
水害がおこるとどのような状況になるのかな。  
した しゃしん み そうぞう  
下の写真を見ながら想像してみましよう。



ていぼう  
堤防がこわれる



どうろ  
道路がこわれる



かわ みず  
川から水があふれる



いえ  
家がこわれる

## 考えてみよう

次のページも見てね

写真のような被害を受けると、どのような危険があるでしょうか。

こんなときはどうなるかな？



- 家からひなん場所へ歩いて行きたい。
- 近所に住むおばあちゃんといっしょにひなんしたい。
- 車に乗って買い物へ行きたい。



山がくずれて、道路を通れない

台風のときにテレビで被害のようすを見たことがあるよ。



山がくずれて、家がこわれる

わたしたちの身の回りでは、どのような被害を受けたことがあるのかな。



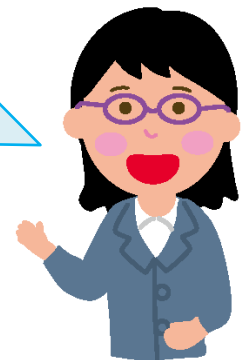
## 2 すいがいじ きけん 水害時におこる危険

くもずがわりゅういき しょうわ ねん ねん たいふう しんすい  
雲出川流域でも、昭和57年（1982年）の台風により、まちが浸水し  
ました。きんねん へいせい ねん ねん しんすいひがい う  
近年でも、平成16年（2004年）などに浸水被害を受けていま  
す。



しょうわ ねん ねん たいふう ごう いちしだんち  
昭和57年（1982年）台風10号（一志団地）

ふだんはどのようなところかな？  
どのような危険があるのかな？  
みんなで考えてみましょう。



このときの様子を家族に聞いて  
みようかな。





へいせい ねん (1990年) ねん たいふうだい ごう つ しいちしちょう  
平成2年 (1990年) 台風第20号 (津市一志町)



へいせい ねん (1990年) ねん たいふうだい ごう つ しいちしちょう  
平成2年 (1990年) 台風第20号 (津市一志町)



へいせい ねん (2004年) たいふうだい ごう (津市須ヶ瀬町)  
平成16年 (2004年) 台風第21号 (津市須ヶ瀬町)



ようす  
ふだんの様子



おおめ ふ あと  
大雨が降った後

へいせい ねん (2004年) ねん たいふう ごう (津市一志町・久居美杉線)  
平成16年 (2004年) 台風21号 (津市一志町・久居美杉線)

ようす  
ふだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後



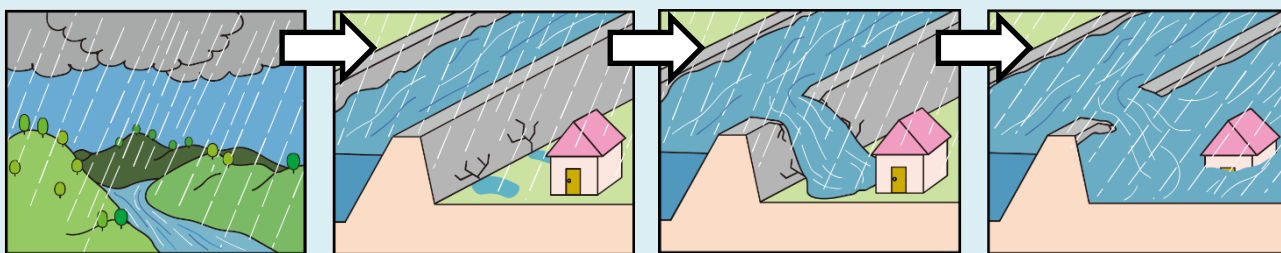
へいせい ねん (2013年) たいふう 18号 (津市須ヶ瀬町)

## もっと知ろう

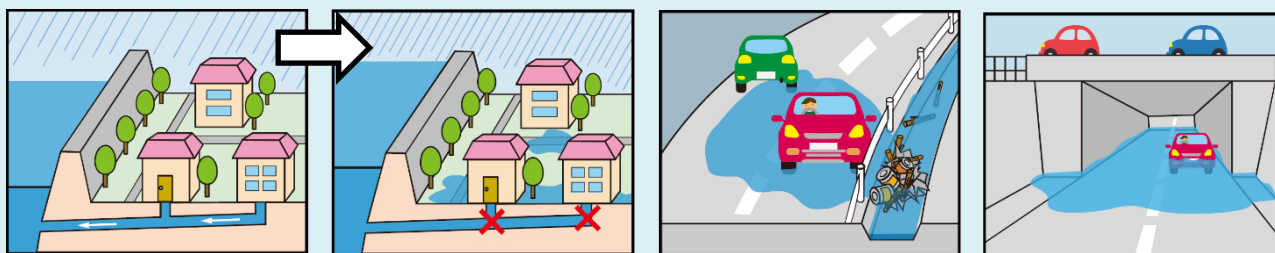
すいがい  
水害ってどうやっておこるの？



かわ なが みず りょう おお  
川を流れる水の量が多くなると、堤防から水があ  
ふれてきたり、堤防がこわれてまちに水が流れてくる  
ね。(外水はんらん)



ふだんは、街中にふった雨は、排水溝や下水道を通  
って川に排水されます。しかし、大雨がふると川の水  
の量がふえ、街中の水が排水できなくなってあふれ  
てしまうことがあります。



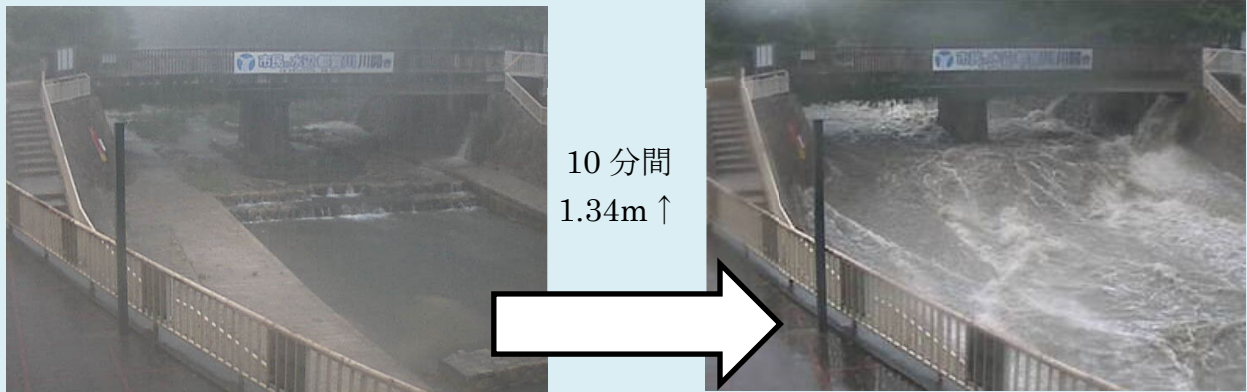
川とは関係ない場所でも、排水溝にゴミがたまって  
しまい道路に水があふれることがあるね。鉄道の  
高架下などの道路が低くなっているところに雨水が  
たまることもあるよ。(内水はんらん)

## もっと知ろう

### 川の水位の上がり方

雨のふり方や雨のふる場所によって、川の水位の上がり方はさまざまです。ゆっくり川の水位が上がることもあれば、集中豪雨によって水位が急に上がることもあります。

平成20年（2008年）7月、兵庫県神戸市を流れる都賀川では、急な集中豪雨が発生し、10分間で1.34メートルも水位が上がりました。水遊びなどをしていた16人が流され、そのうち5人が犠牲となりました。



川の水が急にふえることもあるんだね。

雨がふると、いつもより川を流れる水の量がふえたり、流れがはやくなったりするから、川では遊ばないようにしましょう。



## (1) 水害により身に危険があるとき

わたしたちのまちでも、大雨によって身近な場所が水につかったり、山がくずれたりするかもしれません。万が一のときにそなえて、わたしたちの身に危険があるときにすべきことを考えてみましょう。



水害がおこると、さまざまな危険があることを学びましたね。

わたしたちはどのように行動すればいいのかな。



考えてみよう

次のページを見てね

雨が降ってきたときに、まわりの状況はどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。

こんなときはどうなるかな？



- ・自分の家にいるときに雨が強くなってきました。
- ・ひな人をしようとしたときには、あたりが水びたしになっていました。

3 すいがいじ 水害時にわたしたちがとるべき行動 こうどう

<p>あめ 雨のようす</p>	<p>かわ じょうきょう 川の状況</p>	<p>まわりの状況 まわりの状況</p>
	 <p>ふだんのようす</p>	<p>ふだんのようす</p>
 <p>みず 水たまりができる</p>	 <p>ふだんより水の量が ふえている</p>	<p>あめ つよ 雨が強くなる</p>
 <p>かさ 傘をさしてもぬれる</p>	 <p>水面が堤防に近づいている</p>	 <p>どうろ 道路など一部浸水する</p>
 <p>みず 水しぶきであたり一面が しろ 白っぽくなる</p>	 <p>みず 水があふれそう または、あふれる</p>	 <p>ていぼう 堤防から水があふれだす</p>
	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>



えいきょう  
あなたへの影響



そとで かけるのがあぶなくなる



マンホール、すい路などがみえない



おぼれたり

なが流されたりする



ドアが開かず

そとで出られない



しんすい みうごと  
まちが浸水して身動きが取れない

こうどう  
とるべき行動



ひなんのじゅんびをする



に逃げられなくなるまえに

あんぜん ばしょ  
安全な場所へ

ひなんする

なが流されないように

たか 高くしてあんぜん

ばしょ 移動する



## (2) し 知っておくべきこと



わたしたちの身の回りが危険な状況になる前に、早めに安全な場所へひなんすることが大切であることを学びました。

すいがい 水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるのかな。



しぜんさいがい はっせい 自然災害が発生したときに、どこでどのような災害がおこるかをよそく 予測して、ちざじょう 地図上に危険な地域やひなんばしょ 避難場所・ひなんけいろ 避難経路などを示したものを「ハザードマップ」といいます。しぜんさいがい 自然災害は、じしん 地震、つなみ 津波、どしゃ 土砂災害、すいがい 水害などさまざまですが、それぞれの災害についてハザードマップがつくられています。



ハザードマップを見てわたしたちの家や学校の周りの状況を確認してみよう。



## 考えてみよう

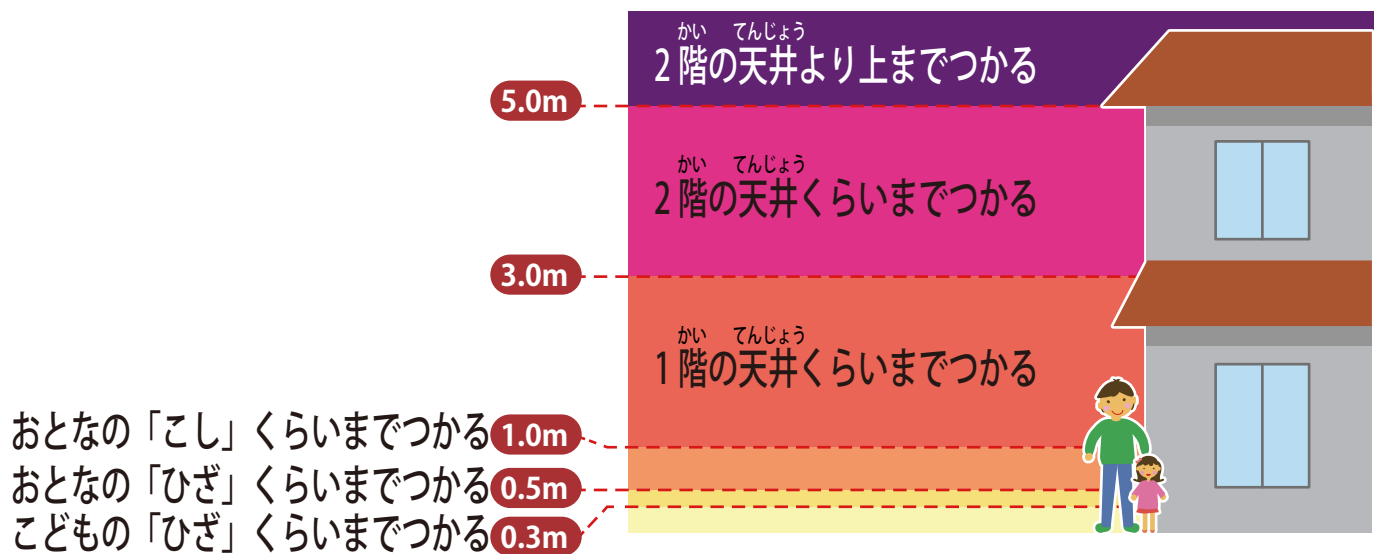
ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。

### 【手順】

① 学校（自宅）の位置に印を入れましょう。

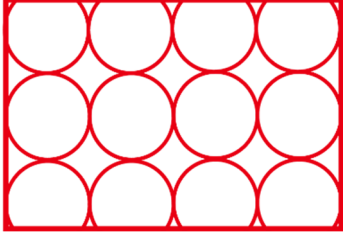



② 学校（自宅）は、水につかりますか？

③ 水につかる場合、どのくらいの高さまでつかりますか？



どのくらいの高さまで水につかるおそれがあるのかは、地図にぬられた色から読みとることができるよ。

④ 学校（自宅）は、建物がたおれるおそれがある地域に入っていますか？

<p>説明 せつめい</p>	<p>かわ みず 川からあふれた水のいきおいで、 たてももの なが 建物が流されるおそれがある場所</p>	<p>たてももの どだいぶぶん 建物の土台部分がけずられて、 たてももの ばしよ 建物がたおれるおそれがある場所</p>
<p>しるし</p>		
<p>例 れい</p>	 <p>平成30年（2018年）7月豪雨 愛媛県大洲市東大洲</p>	 <p>平成23年（2011年）台風12号 三重県熊野市井戸町</p>

⑤ 学校（自宅）は安全ですか？

⑥ ひなんのため、学校（自宅）の周りの安全な場所をさがしてみよう。

・ 近くのひなん場所はどこにあるかな？

指定ひなん場所のマーク

・ ひなん場所のほかに、高く安全な場所

（水につからない場所）は

あるかな？





きょう 今日かくにんしたことは、おうちの<sup>ひと</sup>人にも  
おし 教えてあげてね。

きょう 今日かくにんした「<sup>みず</sup>水につかる<sup>ちいき</sup>地域」は、「<sup>あめ</sup>雨がふったときに<sup>かなら</sup>必ず<sup>みず</sup>水につかる<sup>ばしょ</sup>場所」というわけではありません。しかし、「このあたりまで<sup>みず</sup>水につかるかもしれない」と<sup>かんが</sup>考えて、<sup>みず</sup>水につかって<sup>うご</sup>動くことができなくなる前に、<sup>まえ</sup>早めに<sup>はや</sup>安全な<sup>あんぜん</sup>場所へ<sup>ばしょ</sup>ひなんすることが大切です。

## もっと知ろう

### ひなんについての<sup>じょうほう</sup>情報

さいがい 災害がおこったとき、<sup>かくしちょうそんちょう</sup>各市町村長は<sup>じゅうみん</sup>住民にひなんを呼びかける「<sup>じょうほう</sup>ひなん情報」を<sup>はつれい</sup>発令します。<sup>い み し</sup>意味を知っておき、<sup>めやす</sup>ひなんをする目安としましょう。

#### けいかい 警戒レベル3

こうれいしゃとう  
高齢者等ひなん

ひなんをする<sup>じゅんび</sup>準備をしましょう。<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者の方などひなんに<sup>じかん</sup>時間がかかる人は、ひなん<sup>ひと</sup>を開始<sup>かいし</sup>しましょう。

#### けいかい 警戒レベル4

ひなん<sup>しじ</sup>指示

すぐに、<sup>ぜんいん</sup>全員、ひなんを開始<sup>かいし</sup>しましょう。<sup>いどう</sup>移動が<sup>きけん</sup>危険な場合は、<sup>たか</sup>高い<sup>ばしょ</sup>場所にひなんし  
ましょう。

#### けいかい 警戒レベル5

きんきゅうあんぜんかくほ  
緊急安全確保

さいがい 災害が発生<sup>はっせい</sup>しています。<sup>いのち</sup>じぶんの命を守るための<sup>こうどう</sup>行動をしましょう。

すいがい こま くふう  
(1) 水害で困らない工夫

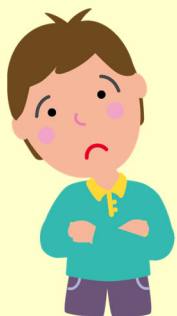
くもずがわ すいがい ひがいで  
雲出川では、水害による被害をおさえるために、さまざまにとりくみ  
おこな  
が行われています。



まいとし たいふう  
毎年、台風はおこっているのに、くもずがわ まわ  
おお ひがいで  
では大きな被害は出ていないね。

考えてみよう

すいがい ひがいで  
水害による被害をおさえるために、どのようなとりくみが  
おこな  
行われているでしょうか。



考えるポイント

- かわ みず  
・川から水があふれないようにするには？
- おおあめ み まわ  
・大雨がふったとき、身の回りでどのようなことが  
おこな  
行われているかな？



くもずがわ みず  
雲出川から水があふ  
れないように、つち  
を盛りあげて、ていぼう  
堤防をつくっています。



なかむらかわ  
中村川

かわ そこ じょうりゅう なが  
川の底には、上流から流  
れてきた砂や泥がたまって  
いきます。そのため、川の底  
をほって、流れる水の量を  
多くしています。

じょうりゅう みず  
上流では、ダムに水を  
ためて、たくさんの水が川  
に流れないように調節し  
ています。



きみがの  
君ヶ野ダム

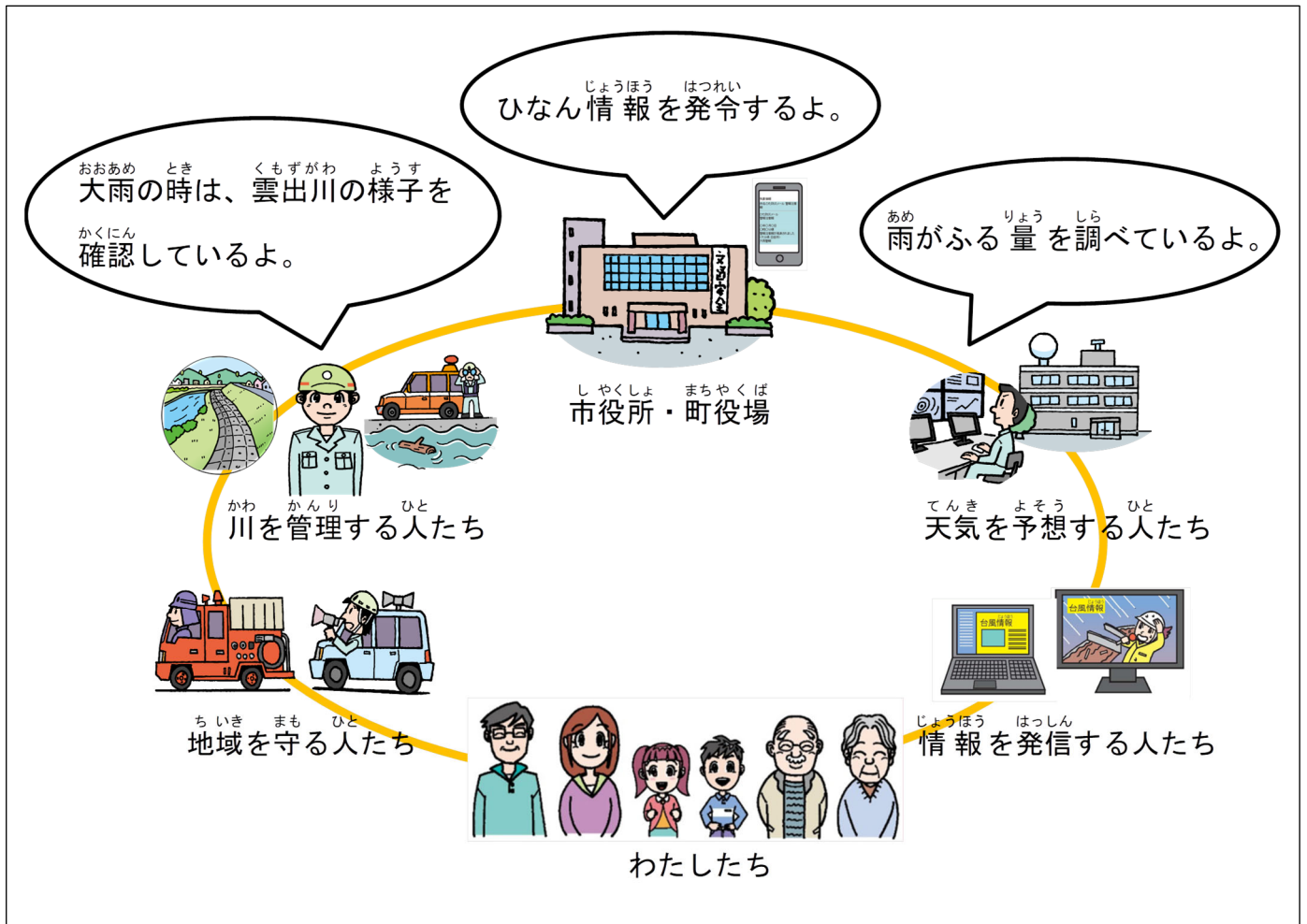


ていきてき ていぼう  
また、定期的に堤防や  
河川の施設が安全か点検を  
しています。万が一にそな  
えて、水防訓練も行ってい  
ます。

## 4 みんなでとりくむ水害へのそなえ

このように、川はふだんから安全に管理されています。

また、大雨のときには、川を管理する人たち、天気を予想する人たち、ひなん情報を発令する市役所・町役場、さまざまな情報を発信する人たち、そして、わたしたち一人一人が関わりあっています。役割はさまざまですが、大雨による被害が少なくなるように、一人一人が「自分のいのちを守る」行動をとることが大切です。



たくさんの方が、災害にそなえるためにはたらいっているんだね。



## (2) 地域の人、家族との助け合い

大雨のときは、天気のようなすやひなんの情報など、さまざまな情報がわたしたちのもとにとどきます。それらの情報や周りのようすを確認して、ひなんが必要なときは家族や地域の人たちと助け合ってひなんしましょう。もしも、家族と別々の場所にいるときに災害がおきたとしたら、まずは「自分のいのちを守る」行動をとりましょう。

もしものときにそなえて、持ち出し品やひなんをした後に集まる場所を家族で話し合っ決めておきましょう。



### あらかじめ家族と決めておこう

持ち出し品

ひなん先

ひなんをした後に集まる場所

(家族が別々の場所にいるとき)

ひなんをするときに注意する場所



高齢者の方や幼い子どもなど、一人でひなんをすることがむずかしい人がいれば、周りの人といっしょにひなんの手助けをしましょう。

もっと知ろう

も だ ひん じゅんび  
持ち出し品の準備

ひなん所に準備されているものには、数に限りがあります。もしものときにそなえて、自ら準備しておく<sup>あんしん</sup>と安心です。両手の空くリュックサックに<sup>も だ ひん じゅんび</sup>持ち出し品を準備しておきましょう。



も だ ひん  
持ち出し品

携帯ラジオ

懐中電灯

電池

非常食

水

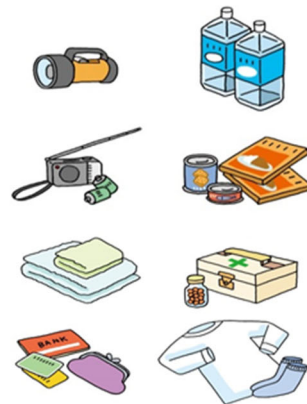
救急医薬品

雨具

現金・貴重品

衣服

ろうそく（マッチ、ライターなど）



もっと知ろう

ひなんするときに注意すること

さんこう  
参考：21 ページ

大雨によって、身の回りが危険な状態になることが予想される<sup>よそう</sup>ときは、早め<sup>はや</sup>に安全な場所<sup>ばしょ</sup>へひなんしましょう。

移動が危険な場合は、高く<sup>たか</sup>て安全な場所<sup>あんぜん ばしょ</sup>にひなんしましょう。もしも水の中<sup>みず なか</sup>を移動する<sup>いどう</sup>場合<sup>ばあい</sup>があれば、棒<sup>ぼう</sup>で足元<sup>あしもと</sup>を確認<sup>かくにん</sup>しながら進<sup>すす</sup>みましょう。

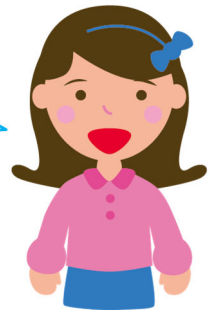


この本では、<sup>ほん</sup>雲出川のまわりの<sup>くもずかわ</sup>水害について<sup>すいがい</sup>学びましたが、<sup>まな</sup>ひっこしを  
 したり、<sup>そと</sup>外に出かけたりして、<sup>ほか</sup>他の川の<sup>かわ</sup>近くにいるときもあるでしょう。  
<sup>すいがい</sup>水害だけではなく、そのほかの<sup>しぜんさいがい</sup>自然災害がおこることもあります。そのよ  
 うなときも、あせらずに<sup>まわ</sup>周りの<sup>ひと</sup>人と<sup>たす</sup>助け合っ<sup>あ</sup>て、「<sup>じぶん</sup>自分のいのちを<sup>まも</sup>守る」  
<sup>こうどう</sup>行動をとるようにしましょう。一人一人の<sup>ひとりひとり</sup>日ごろの<sup>ひ</sup>心<sup>こころ</sup>がけが「もしもの  
 ときのみんなの<sup>あんぜん</sup>安全」をつくります。



ぼくたちのまちの<sup>すいがい</sup>水害について、いろいろ  
 なことを<sup>まな</sup>学んだね。

<sup>たいふう</sup>台風や<sup>おおあめ</sup>大雨のときは、<sup>こんかいまな</sup>今回学んだことをいかして、  
<sup>じぶん</sup>自分のいのちを<sup>まも</sup>守る<sup>こうどう</sup>行動ができると思うわ。



<sup>かわ</sup>川は<sup>とき</sup>時に<sup>きけん</sup>危険な<sup>ばしょ</sup>場所にもなるけれど、<sup>ふだん</sup>  
<sup>い</sup>生きものを<sup>かんさつ</sup>観察したり、<sup>みんな</sup>みんなで<sup>かわあそ</sup>川遊びを  
 したり、いろいろなことができる<sup>ばしょ</sup>場所です。  
<sup>おおあめ</sup>大雨がふったときの<sup>ちゅういてん</sup>注意点を<sup>し</sup>知ったうえで、  
<sup>しぜん</sup>自然とともに<sup>い</sup>生きていきましょう。



# ワークシート

## 3 水害時にわたしたちがとるべき行動

### うら面にはりつける「とるべき行動」シート

○点線で切り取って使いましょう。必要なものを自由に使ってね。



あんぜん ばしょ  
安全な場所へひなんする  
(場所: )



ハザードマップを見て、  
いえ がっこう まわ  
家や学校の周りの  
じょうきょう かくにん  
状況を確認する



なが たか  
流されないように高くて  
あんぜ ばしょ いどう  
安全な場所へ移動する



も だ ひん じゆんひ  
持ち出し品を準備する



ひなん じょうほう かくにん  
ひなん情報を確認する

ひなん さき  
ひなん先やひなんルート  
かくにん  
をあらためて確認する

おじいちゃん れんらく  
おばあちゃん に連絡する

ハザードマップをみると  
自家は安全であるため  
自家で待機する

( ) に連絡する

ひなんを完了する



キリトリ線

